

azbil

人を中心としたオートメーション

アズビル株式会社
2023 年度上期リリース集
(2023 年 4 月～2023 年 11 月)

<目次>

■経営情報 1

2023年5月8日	タイの生産子会社に新工場棟建設を決定 － 海外事業拡大に向け、グローバル生産体制を強化 －	1
2023年5月9日	ジャフコSV7ファンドへの出資について － スタートアップ企業とのパートナーシップ拡大へ －	3
2023年5月10日	azbilグループ、独自のSDGs目標の一つ「新オートメーション」にふたつの定量指標を設定	4
2023年5月12日	自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ及び自己株式消却に係る事項の決定に関するお知らせ	7
2023年5月12日	剰余金の配当(増配)に関するお知らせ	8
2023年5月22日	アズビルとインド工科大学ルールキー校が革新的なデジタルソリューションの共同研究について覚書を締結	9
2023年6月1日	自己株式の取得状況に関するお知らせ	-
2023年7月3日	自己株式の取得状況に関するお知らせ	-
2023年8月1日	自己株式の取得状況に関するお知らせ	-
2023年8月8日	報酬ポリシーを改定、インセンティブ報酬としての株式報酬の構成比率を拡大	11
2023年8月31日	統合報告書「azbilレポート 2023」を発行 － 持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を通して成長を実現する「変革」への取組みを紹介 －	12
2023年9月1日	自己株式の取得状況に関するお知らせ	-
2023年9月25日	自己株式の取得状況及び取得終了に関するお知らせ	-
2023年9月29日	自己株式消却に係る事項の決定に関するお知らせ	-
2023年9月29日	業績予想の修正に関するお知らせ	14
2023年10月6日	外資系データセンター向け事業の拡大を目指し、アズビルとX1Studioが業務提携	15

2023年10月25日	アズビルとフォレストエナジーが資本提携 － 再生可能エネルギー領域でのソリューション拡大 －	17
2023年10月31日	自己株式の消却完了に関するお知らせ	-

■製品・サービス・技術情報..... 19

2023年4月18日	azbilグループの技術研究報告書「azbil Technical Review」を発行 － 脱炭素化や生産高度化を支えるazbilの特徴あるMEMSの技術をテーマにご紹介 －	-
2023年4月28日	アズビルが、10年連続で工場・事業場などの省エネルギー事業を支援する 「エネマネ事業者」に採択されました	19
2023年5月11日	ビル向けクラウドサービスにビル管理・運営の効率化に貢献するクラウドMT(Manager's Tool)を追加 － 設備管理者不足対策に貢献 －	21
2023年6月19日	アズビルと関西電力、AIを活用した設備異常検知システムの導入・活用促進に関する業務提携に合意 － 「BiG EYES plus」を双方で販売開始 －	23
2023年7月27日	「令和4年度補正予算 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業」の公募に対し、アズビルをエネマネ事業者として活用するスキームが採択	25
2023年8月7日	お客さまと共にアズビルの「計測と制御」を学ぶ学習サイト「Learning Plaza」を開設	27
2023年10月5日	AIを応用したオンライン異常予兆検知システム BiG EYES 新たにオプションソフトウェア「自律型・品質管理F3モジュール」を販売開始	29
2023年10月5日	アズビルのサファイア隔膜真空計が2023年度グッドデザイン賞を受賞	30
2023年10月10日	2023年度 計測自動制御学会「技術賞」および「新製品開発賞」を受賞	32
2023年10月17日	JCSS校正事業者として、新たに認定取得および認定範囲拡大 － 高度化していくプロセスに対応した流量・流速、圧力の校正が可能に －	35

■海外情報..... 37

2023年10月13日	アジア太平洋地域における産業デジタル化関連技術の展示会「Industrial Transformation ASIA-PACIFIC(ITAP)2023」へ出展 － DX活用のオートメーション技術によるソリューションを展示 －	37
2023年10月26日	タイアテネホテルのESCOサービスを開始 － アズビルタイランドと芙蓉総合リースタイランドの協業 －	40

■展示会情報

2023年9月5日	第3回脱炭素経営EXPO 秋へ出展 - 脱炭素社会の実現をお客さまと共に -	-
2023年9月13日	「INCHEM TOKYO 2023」へ出展 The New Common and Beyond -持続可能な社会のために-	-
2023年10月2日	「2023東京水道展」へ出展 - 水道事業のDXならびにGXに貢献 -	-
2023年10月18日	「第6回 名古屋スマート工場 EXPO」へ出展 - 製造DXのバックボーンは「自律化」-	-

■人事・機構改革情報

2023年7月10日	azbilグループ役員人事(海外)	-
------------	-------------------	---

■ESG・外部評価情報..... 43

2023年4月4日	トルコ・シリア地震に対する支援について	43
2023年8月1日	2023年度安全衛生大会を開催 - 労働災害ゼロに向け、安心・健康に働くことができる職場環境づくりを推進 -	-

※ページ数を記載したニュースリリースのみを抜粋して掲載しております。
掲載していないものについては、弊社 web サイトにてご覧いただけます。

※ご質問等ございましたら、弊社広報グループまでお問い合わせください。

アズビル株式会社 コミュニケーション部 広報グループ
電話：03-6810-1006 E-MAIL：publicity@azbil.com

■ 経営情報

Press Release

タイの生産子会社に新工場棟建設を決定 — 海外事業拡大に向け、グローバル生産体制を強化 —

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、海外事業展開に合わせたグローバル生産体制のさらなる拡大・強化を図るため、タイのチョンブリー県にある生産子会社 アズビルプロダクションタイランド株式会社（社長：矢野貴史）に新しい工場棟を建設します。



アズビルプロダクションタイランド新工場棟（2024年春竣工予定）

アズビルプロダクションタイランドは、2013年の創業以来、10年にわたってものづくり技術の向上に取り組み、生産品目を拡大させてきました。現在、生産品目は、工業向け温度調節計、各種センサから空調用コントローラまで多岐にわたっています。また、東南アジア諸国、東アジア各国に向けた製品の生産、直接の出荷拠点として重要な役割を担っています。

このたびの新工場棟建設は、当社グループの海外事業拡大に合わせて見込まれる需要の拡大に対応するとともに、工業市場向けの電磁流量計、差圧発信器といった高度な生産技術を要する多様な製品を求める海外のお客さまのニーズにお応えするため、さらなる生産能力の強化、生産品目の拡大を図るものです。

azbil グループは、1994年に最初の海外生産拠点としてアズビル機器（大連）を、2013年にはアズビルプロダクションタイランドを設立し海外における生産能力の拡大を図ってまいりました。また、高度な生産技術の開発や自動化を進めるため、2019年には湘南工場と研究開発拠点の藤沢テクノセンターを連携させたマザー工場を本格稼働させ、日本・中国・タイを3極としたグローバルな生産体制の強化してまいりました。海外生産比率は、2010年以降拡大を続けており、3年後の2025年には30%台半ばを計画しています。

■ アズビルプロダクションタイランド株式会社 新工場棟

建築面積	6,069 m ² 3階建て
延床面積	15,064 m ²
投資金額	391,000,000 タイバーツ (約 15 億円)
建設完成時期	2024 年春

当社はこれからも「人を中心としたオートメーション」の理念の下、お客さまのニーズに対応した製品・サービスの開発、提供を通じて、よりよい社会の実現のために貢献してまいります。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 安富／高橋 メール：publicity@azbil.com

TEL：03-6810-1006 ・ 080-4112-4782

Press Release

ジャフコ SV7 ファンドへの出資について ー スタートアップ企業とのパートナーシップ拡大へ ー

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、このたび、ジャフコ グループ株式会社（本社：東京都港区、取締役社長：三好啓介、以下「ジャフコ」）が管理・運営する「ジャフコ SV7 ファンド」（以下「本ファンド」）へ出資いたしました。

成長が期待される国内未上場企業を投資対象としている本ファンドに出資することで、拡大が見込まれる新たな事業領域の市場情報や革新的な技術情報の獲得、投資先企業との関係構築等を行い、新規事業領域の探索につなげてまいります。

また、本ファンドを運営し、設立から 50 周年を迎え、豊富な投資実績を有する日本有数のベンチャーキャピタルであるジャフコとの関係強化により新たなアライアンスの機会を獲得することで、アズビルが定めるオートメーション技術を共通基盤とした 3 つの成長事業領域 — 「新オートメーション事業領域」「環境・エネルギー事業領域」「ライフサイクル型事業領域」での成長を加速させてまいります。

azbil グループは、「人を中心としたオートメーション」のグループ理念の下、事業を通して持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を実践することで、自らの中長期的な発展を確実なものとし、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。

本ファンドの概要

名称	ジャフコ SV7 投資事業有限責任組合
運用会社	ジャフコ グループ株式会社
投資先	成長が期待される国内の未上場企業

ジャフコについて

会社名	ジャフコ グループ株式会社 (https://www.jafco.co.jp/)
所在地	東京都港区虎ノ門 1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー24 階
代表者	取締役社長 三好啓介
設立	1973 年 4 月 5 日

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 広報グループ 担当：安富／高橋

メール：publicity@azbil.com

電話：03-6810-1006・080-4112-4782

Press Release

azbil グループ、独自の SDGs 目標の一つ「新オートメーション」にふたつの定量指標を設定

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、このたび、「azbil グループ SDGs 目標」において、事業として取り組む「新オートメーション」を具体的に推進するため新たに2つの定量指標を設定しました。

azbil グループは持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティ経営推進において「長期にわたり取り組む10の重点課題」として、マテリアリティを選定しています。

これらの選定課題の中でも、特に4つに区分したSDGs目標を定め開示し、サステナビリティ方針の重要な道標と位置づけています。

SDGs 目標達成に向けた取り組みを通して、事業および人材育成・成長の観点も含めた azbil グループならではの価値創造を実現し、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を目指しています。取り組みを着実に進めるため、それぞれの目標毎に具体的な指標を設定し、毎年見直すとともに新たな指標を追加しています。



SDGs 目標の一つ「新オートメーション」は、お客さまの持続可能な生産現場・職場環境、さらなる安心・快適・達成感の実現に向け、生産空間・居住空間（ビル建物）・生活空間における「計測の高度化」、「データ化」、「自律化」などにより、社会が求める時々の課題を解決、付加価値を創出することを目指しています。このたび、その項目における新しい定量指標として以下を設定しました。

- 新オートメーションで2030年に延べ8,000事業所で事業環境変化に強い状態を実現 ※1
- 新オートメーションで2030年に延べ600万人にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供 ※2

※1 2022年4月時点で530事業所で稼働。2030年には15倍の8,000事業所を目指す

※2 2022年4月時点で60万人に提供。2030年には10倍の600万人への提供を目指す

事業環境の変化が激しい現代では、データに基づく経営、操業、環境対策などが求められています。新オートメーションは、従来のオートメーションだけでは解決できない持続可能性を阻害する要因（機

器の故障、就労人口減少による働く人の多様化など)を解決することができ、お客さまの生産現場、職場環境の持続可能性を高めることを実現します。

具体的な対象製品・サービスは、「MEMS 技術を活用した高度な計測機器」、「エネルギーマネジメント・設備の最適運転やウェルネスを追求したオフィスビル クラウドサービス」、「LP ガス遠隔検針クラウドシステムと配送効率化サービス」、「各種稼働データの解析によるバルブ診断サービス」、「AI・データを活用したオンライン異常予兆検知システムなどに代表される自律化システム」などになります。

さらに、様々な分野で活躍する企業や各種研究機関とのパートナーシップの拡大により、当社の技術や知見をより広く社会に実装することで事業を伸長し、SDGs の実現に貢献します。

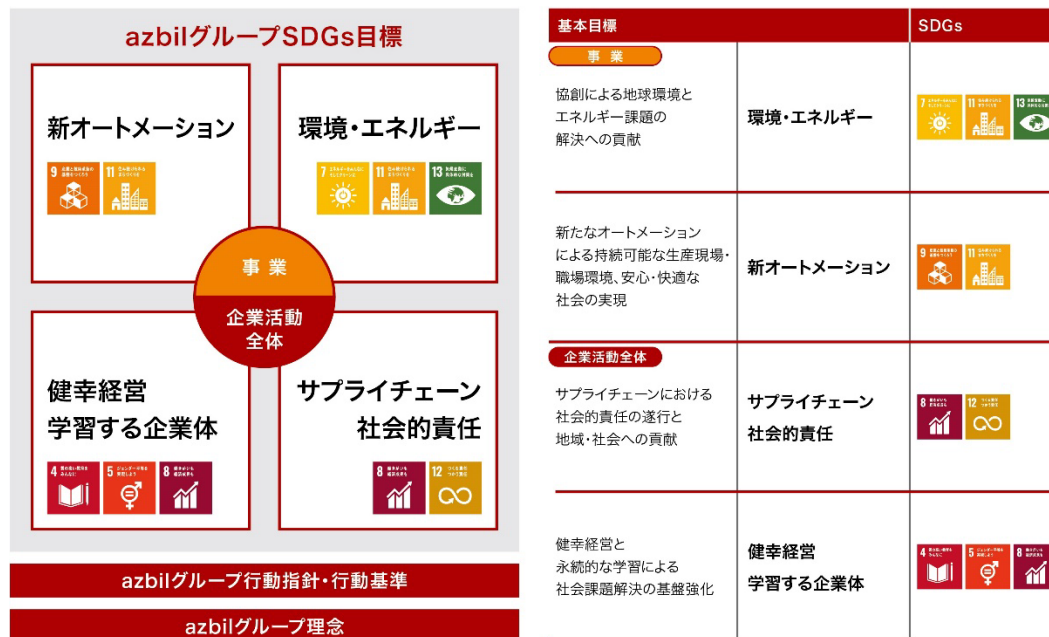
*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高橋／安富 メール：publicity@azbil.com

電話：080-4112-4782 ・ 03-6810-1006

(ご参考) azbilグループSDGs目標と新オートメーション



II 新オートメーション

【ターゲット】

お客様の持続可能な生産現場・職場環境、さらなる安心・快適・達成感の実現に向け、生産空間・居住空間（ビル建物）・生活空間における「計測の高度化」、「データ化」、「自律化」などにより、社会が求める時々の課題を解決、付加価値を創出

【定量指標】

- ・新オートメーションで2030年に延べ8,000事業所で事業環境変化に強い状態を実現
- ・新オートメーションで2030年に延べ600万人にストレスフリー、多様な働き方につながる環境を提供

【貢献領域】

1. 事業環境変化に強いオートメーションの実現
 内的環境変化（設備不調、原材料品質など）による影響の予測・診断と自律的意思決定・制御
 外的環境変化（自然災害、社会情勢など）による影響の予測・診断と自律的意思決定・制御
2. ストレスフリーな職場環境の実現
 データに基づく作業支援による作業ミス・計画外作業の低減など
 労働生産性向上となる「快適かつ省エネ」環境の構築
3. 多様な働き方につながる環境の実現
 時間や場所に合わせた最適な就労環境の構築
 年齢や性別、スキルなどによらない就労環境の構築

各位

会社名 アズビル株式会社
 代表者名 取締役 代表執行役社長 山本 清博
 (コード番号：6845 東証プライム)
 問合せ先 グループ経営管理本部長 赤羽根 利彦
 (TEL：03-6810-1010)

**自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ
 及び自己株式消却に係る事項の決定に関するお知らせ**

(会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得
 及び会社法第178条の規定に基づく自己株式の消却)

当社は、2023年5月12日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議するとともに、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議しましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 自己株式の取得及び消却を行う理由

資本効率の向上を図るとともに、業績の状況・見通しを反映して、株主の皆様への一層の利益還元と企業環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするためであります。

2. 取得に係る事項の内容

- (1) 取得対象株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得し得る株式の総数 4,000,000株(上限)
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合2.9%)
- (3) 株式の取得価額の総額 10,000百万円(上限)
- (4) 取得期間 2023年5月15日～2023年9月22日
- (5) 取得方法 東京証券取引所における市場買付

3. 消却に係る事項の内容

- (1) 消却する株式の種類 当社普通株式
- (2) 消却する株式の数 上記2により取得した自己株式の全数
- (3) 消却予定日 2023年10月31日

(ご参考) 2023年3月31日時点での自己株式保有状況

発行済株式総数(自己株式を除く) 136,552,663株
 自己株式数 7,148,221株

※上記自己株式数には、株式給付制度、信託型従業員持株インセンティブ・プラン及び株式報酬制度の信託口が保有する当社株式を含んでおりません。なお、2023年3月31日時点におけるこれらの制度の信託口が保有する当社株式は2,943,331株です。

以上

各 位

会社名 アズビル株式会社
 代表者名 取締役 代表執行役社長 山本 清博
 (コード番号：6845 東証プライム)
 問合せ先 グループ経営管理本部長 赤羽根 利彦
 (TEL：03-6810-1010)

剰余金の配当（増配）に関するお知らせ

当社は、2023年5月12日開催の取締役会において、2023年3月31日を基準日とする剰余金の配当（増配）について、2023年6月27日開催予定の当社第101期定時株主総会に下記のとおり付議することを決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2023年2月7日公表)	前期実績 (2022年3月期)
基準日	2023年3月31日	同左	2022年3月31日
1株当たり 期末配当金	33円50銭	32円50銭	30円00銭
期末配当金総額	4,574百万円	—	4,176百万円
効力発生日	2023年6月28日	—	2022年6月24日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

2. 理由

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けており、連結業績、自己資本当期純利益率・純資産配当率の水準及び将来の事業展開と企業体質強化のための内部留保等を総合的に勘案して、配当水準の向上に努めつつ、安定した配当を維持していきたいと考えております。

2023年3月期の1株当たり期末配当金につきましては、当期の連結業績、財務状況及び今後の経営環境等を総合的に勘案し、株主の皆様への一層の利益還元を進めるべく、直近の配当予想から1円増配の33円50銭といたします（前期比3円50銭増配）。なお、当期の年間配当は以下のとおり、合計66円00銭となり、前期比6円の増配となります。

（ご参考）年間配当の内訳

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	合計
当期実績	32円50銭	33円50銭	66円00銭
前期実績 (2022年3月期)	30円00銭	30円00銭	60円00銭

以 上

Press Release

アズビルとインド工科大学ルールキー校が 革新的なデジタルソリューションの共同研究について覚書を締結

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、インド工科大学ルールキー校*（以下「IIT Roorkee」）と革新的なデジタルソリューションの共同研究について覚書を締結したことをお知らせします。2023年5月2日、インドのIIT Roorkeeのジェームズ・トマソン・ビルディングにて、当社取締役 代表執行役社長の山本清博およびIIT Roorkeeダイレクターのカマル・キショア・パント教授により、本覚書締結の調印式が行われました。

今後、アズビルとIIT Roorkeeは、互いに関心の高い分野で共同研究やインターンシッププログラムを実施していきます。具体的には、共同学術活動、デジタル化促進プロジェクト、専門知識と人材の相互提供、特定の科学、技術、工学、数学（STEM）分野における人材育成などを予定しています。今回のパートナーシップの目的は、研究開発および知識共有を進めることであり、これを通じて同校学生もオートメーションにかかわる先進技術、現場での貴重な経験を得ることができます。

今回の調印について、当社代表執行役社長 山本は「IIT Roorkeeはインドで最も優れた技術教育機関の一つであり、あらゆる分野の技術開発に貢献してきました。この協働を通じて、デジタルイノベーションを推進するための重要な一歩を踏み出すことができることをうれしく思っています。アズビルは、IIT Roorkeeと戦略的パートナーシップを締結し、画期的な技術の研究を進めるとともに、IIT Roorkeeの学生の皆さんにはグローバルな職場環境での学習の機会を提供します。企業として、人材育成への投資がイノベーションを推進し、長期にわたり成長を収めるための鍵であると考えているため、技術研究と教育の両方を支援してまいります。」と述べています。

一方、IIT Roorkeeダイレクターのカマル・キショア・パント教授は「産学連携は世界レベルの教育を実現するための鍵であると考えています。IIT Roorkeeとアズビルの協力関係を構築することにより、両者の強みとリソースを活用してイノベーションを推進し、研究開発を促進し、特にオートメーション技術分野において新たな成長と成功の機会を生み出すことができます。私たちの協働は、学生が学習、研究、実践、そしてSTEM関連のキャリアについて関心を高める道のりをサポートすることを目的としています。」と述べています。



アズビルと IIT Roorkee の MoU 締結式

当社取締役 代表執行役社長の山本清博、IIT Roorkee ディレクター カマル・キショア・パント教授
(写真中央)

azbil グループは、「人を中心としたオートメーション」のグループ理念の下、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献と持続的な成長を目指し、今後もステークホルダーとの関係を構築してまいります。

インド工科大学ルールキー校

IIT Roorkee は、engineering, sciences, management, architecture and planning, and humanities and social sciences の高等教育を提供する国家的に重要な機関です。1847 年の設立以来、同校は国に技術人材とノウハウを提供する重要な役割を果たしています。



*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 広報グループ 担当：安富／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：080-4112-4782 ・ 03-6810-1006

Press Release

報酬ポリシーを改定、インセンティブ報酬としての株式報酬の構成比率を拡大

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、当社報酬委員会の決定に基づく役員報酬制度の改定に伴い、報酬ポリシーを改定いたしました。

当社は、過半数の独立社外取締役によって構成され、かつ独立社外取締役が委員長を務める報酬委員会にて決議した役員（執行役および取締役）報酬の決定方針に基づき、報酬ポリシーを開示しております。このたび、報酬委員会において、中長期的な業績目標の達成および企業価値向上に向けた動機づけを目的に、執行役の報酬の構成割合を見直し、業績連動報酬の比率をより高めるため株式報酬の割合を拡大することを決定し、以下の通り報酬ポリシーを改定いたしましたので、お知らせいたします。

【報酬ポリシー 改定箇所（下線部分）】

■ 報酬構成

当社の執行役（「取締役を兼務する執行役を含む」、以下同じ）の報酬構成は、その役割と責任に基づき、毎月支給される固定報酬である「基本報酬」、短期インセンティブ報酬としての「賞与」、中長期インセンティブとしての「株式報酬」から構成されます。中長期的な業績目標の達成および企業価値向上を動機づける報酬構成とするため、インセンティブ報酬の割合をより高め、執行役の報酬の構成割合は、「基本報酬：賞与（基準額）：株式報酬（基準額）」＝「5：3：2」を目途見込みとした設計としております。なお、取締役（「執行役を兼務する取締役は含まない」、以下同じ）の報酬は、「基本報酬」および「株式報酬」で構成しております。

なお、報酬ポリシーの全文につきましては、以下のページよりご覧いただけます。

<https://www.azbil.com/jp/ir/management/governance/index.html>

当社は、azbil グループの企業理念である「人を中心としたオートメーション」の理念の下、常に時代の変化に対応し、持続的な成長、企業価値の向上に努めてまいります。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 広報グループ 担当：高橋・高石 メール：publicity@azbil.com

電話：070-1059-4226 ・ 03-6810-1006

■ その他、ご質問等のお問い合わせ先：

アズビル株式会社 役員会室取締役会運営事務局 担当：酒井

電話：03-6810-1001

Press Release

統合報告書「azbilレポート 2023」を発行

— 持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を通して成長を実現する「変革」への取組みを紹介 —

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、統合報告書「azbilレポート 2023」を発行しました。本報告書では、オートメーション事業を通じて持続可能な社会へ「直列」に貢献するとともに、さらなる成長を実現するための「変革」への取組みについてご紹介しています。具体的には、サステナビリティ経営の取組みにおいて、マテリアリティ^{※1}とその達成を目指す姿に向けてのKPIである当社グループのSDGs目標^{※2}等との関連性を明示しました。そのうえで、トップの語るビジョンを実現するための現経営計画・事業施策の進捗と、「変革」の注力ポイントである「商品力強化」「研究開発・設備投資強化」「人的資本への投資強化」について説明し、リスクマネジメントやコーポレート・ガバナンス等、事業基盤強化の取組みと併せて統合的に解説しています。

脱炭素化への対応等、社会・事業環境の変化によりオートメーションの新たな領域・事業機会が生まれ、需要の拡大が期待されています。azbilグループでは、オートメーション技術を共通基盤とした3つの成長事業領域^{※3}を核に、これら新しい需要に応えることで社会課題解決への貢献と持続的成長の両立を目指す経営計画^{※4}を策定し、取り組んでいます。

中期経営計画（2021～2024年度）策定から今日までの間に、私たちは、感染症拡大、部品調達難や地政学的リスク等、様々な環境変化を経験してきました。本報告書では、これまでの安全への取組みを継続のうえで、様々な変化を機会に、さらなる成長を実現するための「変革」、すなわち、商品力強化に向けた開発等の組織改革や研究開発拠点における施設・設備強化、開発環境整備への投資、人材育成やインセンティブ付与を含む人事制度の導入等の動きについてご紹介しています。

また、azbilグループの持続可能な発展（サステナビリティ）を確かなものとするESG（環境・社会・ガバナンス）の観点からは、脱炭素化から資源循環・生物多様性保全等の地球環境保全に向けた取組み、サプライチェーンでのお取引先さま一体になっての人権デューデリジェンス^{※5}やCO₂排出量削減への取組み、リスクマネジメントでは、現場部門の情報を経営層が十分に把握したうえで意思決定できるプロセスへの変更および特定されたリスクを軽減するための体制強化について説明しています。コーポレート・ガバナンスについては、取締役会および指名・監査・報酬の3委員会の活動状況や役員報酬制度等、ガバナンス強化に向けた取組みをご紹介しています。特に、指名委員会等設置会社移行（2022年6月）後の取締役会実効性強化に向けた取組みについては社外取締役である3委員会委員長が鼎談^{ていだん}という形で評価・意見を述べています。



azbilグループは、「人を中心としたオートメーション」の理念の下、事業活動を通じて持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を実践することで、自らの中長期的な発展を確実なものとし、企業価値を持続的に向上させることを目指してまいります。

- ※ 1. マテリアリティ：
環境（気候変動、資源循環）、イノベーション、社会（サプライチェーン、地域社会への貢献）、人材（人権・安全・健康、学習と人材育成）、ガバナンス（商品安全・品質、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス）
- ※ 2. azbil グループ SDGs 目標：
I 環境・エネルギー、II 新オートメーション、III サプライチェーン、社会的責任、IV 健幸経営、学習する企業体
- ※ 3. 3つの成長事業領域：
「新オートメーション事業」「環境・エネルギー事業」「ライフサイクル型事業」
- ※ 4. 長期目標（2030年度）、中期経営計画（2021～2024年度）：
・長期目標 売上高 4,000 億円規模、営業利益・率 600 億円規模/15%程度、ROE 13.5%程度
・中期経営計画最終年度目標 売上高 3,000 億円、営業利益・率 360 億円/12%、ROE 12%程度
- ※ 5. 人権デューデリジェンス：
企業がサプライチェーン上を含めた事業における人権リスクを特定し、その防止・軽減を図り、取組みの実効性や対処方法について説明・情報開示すること

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：080-8752-2536 ・ 03-6810-1006

各位

会社名 アズビル株式会社
 代表者名 取締役 代表執行役社長 山本 清博
 (コード番号: 6845 東証プライム)
 問合せ先 グループ経営管理本部経理部長 山崎 和久
 (TEL: 03-6810-1009)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2023年5月12日に公表しました2024年3月期第2四半期累計期間(2023年4月1日~2023年9月30日)の連結業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2024年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2023年4月1日~2023年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	129,300	9,700	9,700	7,600	57.19
今回修正予想 (B)	130,800	11,700	12,900	10,800	81.82
増減額 (B-A)	1,500	2,000	3,200	3,200	
増減率 (%)	1.2	20.6	33.0	42.1	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	121,006	8,181	9,836	6,050	44.77

2. 修正の理由

2024年3月期第2四半期(累計)連結業績予想につきましては、各主要事業における採算性の向上並びに、ビルディングオートメーション事業の堅調な市場環境に対応するため、下期業務負荷低減を勘案した改修案件とサービス分野での工期の前倒しなどの施策により、売上高及び営業利益の増加を見込みます。加えて、為替レートが想定より円安に推移したことによる為替差益の発生や、受取損害賠償金の計上があったことから、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても予想を上回る見込みとなりました。

2024年3月期の通期連結業績予想につきましては、収益性の改善は継続する一方、下期の不透明な市況見通しにより、さらに精査を進め、修正の必要が生じた場合は、速やかに業績予想の修正を行う予定です。

(注) 上記の連結業績予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上

Press Release

外資系データセンター向け事業の拡大を目指し、 アズビルと X1Studio が業務提携

アズビル株式会社
X1Studio 株式会社

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）と、X1Studio 株式会社（本社：千代田区麴町 2-2-22 創設者兼代表取締役社長：ウィリアム アチュリ）は、両社が得意とする領域を活かし、日本国内におけるデータセンター向け事業の拡大を皮切りに、さらなる事業拡大を実現するため、出資契約および業務提携契約に合意いたしました。具体的には、アズビルが X1Studio の第三者割当増資を引き受け、出資するとともに、X1Studio と業務提携契約を締結いたしました。

X1Studio は SCADA*1 システムのエンジニアリングを軸に外資系データセンターのトータルマネジメントシステムを手掛けています。またアズビルは、国内のビルディングオートメーション（BA）領域を牽引するリーディングカンパニーとして建物向けの監視・制御システム（BMS：Building Management System）を国内外に提供しています。

外資系の施主が運営するデータセンターは、本国で採用したシステムを他国でも採用することが一般的ですが、海外製 SCADA システムを提供する X1 Studio と、BA 分野で実績を持つアズビルが提携することにより、今後市場拡大が見込まれている国内のデータセンター市場における事業機会の拡大を図ります。

X1Studio 創設者兼代表取締役社長 ウィリアム アチュリのコメント

「今回の提携を通じ、データセンター管理の未来の可能性をさらに広げることができると確信しています。アズビルと共に、データセンター業界の新たなスタンダードを確立し、クライアントに真の価値を提供することを目指します。」

アズビル株式会社社長 山本清博のコメント

「今回の X1Studio との提携は、当社のデータセンター市場におけるソリューションの幅を広げ、お客さまに提供することのできる価値をさらに拡大できると考えています。データセンター市場は今後、グローバルでの伸長が見込まれており、今回の提携を起点にさらなる事業拡大を目指してまいります。」

また両社は今後、海外のデータセンターへの市場拡大に加え、X1Studio が実績を伸ばしている高級ホテルのゲストルームソリューション（ホテル業界向けに提供する X1Studio 製ソフトウェアプラッ

トフォーム『hotelOS（ホテルオーエス）』）分野においても、双方の強みを活かした新たな価値提供の可能性について検討を行っていく予定です。

azbil グループは、「人を中心としたオートメーション」のグループ理念の下、事業を通して持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を実践することで、自らの中長期的な発展を確実なものとし、企業価値の持続的な向上を目指してまいります。

■会社概要

社名 アズビル株式会社
所在地 東京都千代田区丸の内 2-7-3
代表者 取締役 代表執行役社長 山本 清博
創業 1906年12月1日
事業内容 計測・制御機器の開発・生産・販売・サービス
URL <https://www.azbil.com/jp/>

社名 X1Studio 株式会社
所在地 東京都千代田区麹町 2-2-22
代表者 創設者兼代表取締役社長 ウィリアム アチュリ
設立 2020年9月18日
事業概要 IoTテクノロジーのS/W、H/Wの開発、販売、輸入、ITコンサルティング
URL <https://x1studio.co.jp/>

*1 SCADA (Supervisory Control And Data Acquisition) : プラントや工場、超大規模ビル向けシステム的一种。プラント・工場の製造プロセスや生産設備、高度な制御が求められるビルなどにおいて、コンピュータで監視・制御を行う。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先 :

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当 : 高石/高橋 メール : publicity@azbil.com
電話 : 03-6810-1006 ・ 070-1059-4226

Press Release

アズビルとフォレストエナジーが資本提携 ー 再生可能エネルギー領域でのソリューション拡大 ー

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3、社長：山本清博、以下「アズビル」）と、フォレストエナジー株式会社（本社：品川区上大崎3-14-37、代表取締役社長：沼真吾、以下「フォレストエナジー」）は、再生可能エネルギーによる持続可能な社会の推進に向け、アズビルがフォレストエナジーの第三者割当増資を引き受け、出資契約を締結しました。

アズビルは、環境・エネルギー領域での成長を見据え、再生可能エネルギー領域でのソリューション拡大と、2050年カーボンニュートラル達成に向けた地産地消エネルギーシステム・地域連携ビジネスの拡大と可能性を視野に入れており、その一環としてフォレストエナジーへの資本参加を決定しました。

フォレストエナジーは、地産地消型の木質バイオマス発電所の企画・開発から運用までを手掛ける地域循環型の木質エネルギー会社です。小型バイオマス CHP*1（熱電併給）の輸入販売・設置・保守も行い、これら設備を活用した市町村の分散型エネルギープランの策定や実施を通じて、環境問題と地域課題の解決を両立した地域レジリエンスの向上*2に取り組んでいます。

アズビルはこの資本参加により、森林資源にアクセスできる地域のお客さま（自治体・建物・工場等）への再生可能エネルギー（電気・熱）供給等のサービス強化を図り、環境価値型 ESP 事業*3においてオンサイトでの再エネ提供のソリューションを拡大します。エネルギーマネジメント領域で長年培ってきたノウハウと技術力を活かし、フォレストエナジーとの協力により、地域の森林資源を活用した需給一体型の再エネ活用モデルを構築し、地域の脱炭素化を支援することを目指します。

azbil グループは、「人を中心としたオートメーション」のグループ理念の下、お客さま、地域社会など様々なステークホルダーとの関係構築を通して、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献と持続的な成長を目指します。

会社概要

社名 アズビル株式会社
所在地 東京都千代田区丸の内 2-7-3
代表者 取締役 代表執行役社長 山本 清博
創業 1906年12月1日
事業内容 計測・制御機器の開発・生産・販売・サービス
URL <https://www.azbil.com/jp/>

社名 フォレストエナジー株式会社
所在地 東京都品川区上大崎 3丁目 14番 37号 JESCO 目黒ビル
代表者 代表取締役社長 沼 真吾
設立 2015年4月10日
事業概要 地産地消型の木質バイオマス発電所を運営する地域自然エネルギー事業
URL <https://forestenergy.jp/>

*1 CHP (Combined Heat & Power) : 「コージェネレーション」とも呼ばれ、1つの燃料源から電気と熱または熱水などの2つの形態のエネルギーを同時に生み出す。

*2 環境問題と地域課題の解決を両立した地域レジリエンスの向上:

地域へ再生可能エネルギー設備等の導入を行い、平時の脱炭素化に加え、災害時にもエネルギー供給等を可能にすること。

*3 ESP (Energy service provider) : エネルギー関連設備の導入、運転管理・保守メンテナンスなどのサービスまで一括で提供するビジネス。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先:

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当: 高石/高橋 メール: publicity@azbil.com

電話: 03-6810-1006・070-1059-4226

■製品・サービス・技術情報

Press Release

アズビルが、10年連続で工場・事業場などの省エネルギー事業を支援する 「エネマネ事業者」に採択されました

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、当社を幹事社とするコンソーシアム^{*1}を構成し、経済産業省（実施団体：一般社団法人 環境共創イニシアチブ（SII））が行った令和4年度補正予算「省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金」および「省エネルギー投資促進支援事業費補助金」の両事業（エネマネ事業）^{*2}に係るエネルギー管理支援サービス事業者（エネマネ事業者^{*3}）公募に申請、3月27日にエネマネ事業者に採択されました。10年連続となります。

エネマネ事業者は、建物にEMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入し、EMSから得られる情報を活用するエネルギー管理支援サービスを通じて、ビル、工場、事業場^{*4}の省エネルギー事業やピーク電力削減の推進に貢献します。

アズビルは、当社の監視センターとEMSをクラウドでつなぎ、収集したデータを活用したエネルギー管理支援サービスを提供いたします。建物向けのEMSとして、ビルディングオートメーションシステム savic-netTMG5、savic-net FX2、savic-netFX2compactTM、savic-net FXmini、工場向けのEMSとして協調オートメーションシステム Harmonas-DEOTMをSIIに登録しています。

アズビルは、省エネ・脱炭素を含むエネルギーマネジメントをアズビルグループが省エネルギー・再生可能エネルギー領域での実績に基づく強みを持つ成長事業領域として、大・中規模ビルや工場・プラント、さらに住宅やエネルギーインフラなど幅広い業種において、社会の要請や顧客のニーズに応えるべく、様々な製品・サービス・ソリューションを展開しております。

azbilグループでは、「人を中心としたオートメーション」の理念の下、持続的な社会の発展に貢献できる企業集団を目指し、工場や建物の省エネ・脱炭素を実現する様々な手法を提案し、地球環境保全およびSDGsの達成に貢献してまいります。

【当社を幹事社とするコンソーシアムの構成企業】（順不同、敬称略）

日本電技株式会社 <https://www.nihondengi.co.jp/>

東テック株式会社 <https://www.totech.co.jp/>

株式会社オーテック <https://www.o-tec.co.jp/>

裕幸計装株式会社 <http://www.yukokeiso.com/>

千代田計装株式会社 <https://www.ckcnw.co.jp/>

ヤシマ工業株式会社 <https://www.yashima-kogyo.com/>

フィット電装株式会社 <http://www.fit-denso.co.jp/>

株式会社ニシテック <https://nishitec.co.jp/>
株式会社東洋システム <http://www.toyo-stm.co.jp/>
東都計装株式会社 <http://totokeiso.com/>
システム計装株式会社 <https://www.system-keiso.jp/>

商品については、こちらのサイトをご覧ください。

【建物向け EMS】

<https://www.azbil.com/jp/product/building/system/index.html>

【建物のエネルギーマネジメント】

<https://www.azbil.com/jp/product/building/energy-management/index.html>

【カーボンニュートラルな社会の実現を、お客様と共に】

https://www.azbil.com/jp/product/building/mirai/carbon_neutral/index.html

【工場・プラント向け EMS】

<https://www.azbil.com/jp/product/factory/index.html>

*1 コンソーシアム：共同事業体。アズビルを幹事社として形成したコンソーシアムでは、アズビルの EMS を販売し、アズビルと協力してエネルギー管理支援サービスを提供。

*2 「省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金」及び「省エネルギー投資促進支援事業費補助金」の両事業（エネマネ事業）：SII が指定する計測・見える化・制御等の機能を備えた EMS を用いて、エネルギー管理支援サービスを提供し、補助事業者と共同でより効果的な省エネルギー設備導入事業を実施する事業。

*3 エネマネ事業者：補助事業者の事業所に対して EMS を適切に設置するとともに、自らが有する EMS の機能を活用したエネルギー管理方法を補助事業者に提供し、補助事業の省エネ化をより一層進める役割を担い、SII に採択された者。

*4 事業場：ここでは、省エネ法の工場・事業場およびエネルギー管理を一体となっていて行っていると判断できる単位を言う。

*savic、savic-net、savic-net FX,FX2compact、Harmonas-DEO、は、アズビル株式会社の商標です。

*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高橋、安富 メール：publicity@azbil.com

電話：03-6810-1006

Press Release

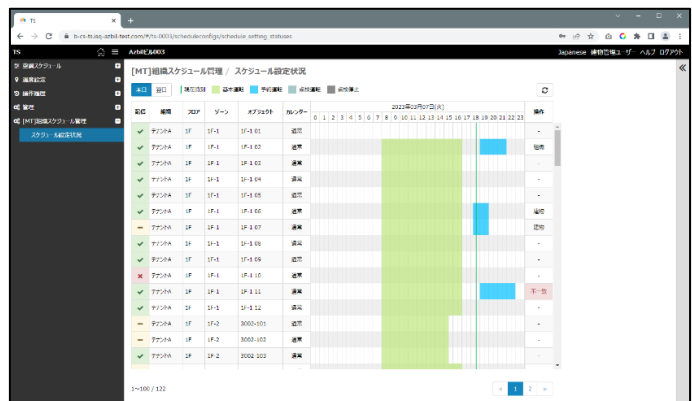
ビル向けクラウドサービスに ビル管理・運営の効率化に貢献するクラウド MT (Manager's Tool) を追加 — 設備管理者不足対策に貢献 —

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、IoT 技術を駆使してビルのエネルギー管理・設備保全管理業務の効率化やオフィスの利便性・快適性の向上を実現するビル向けクラウドサービスに、新アプリケーションとしてクラウド MT(Manager's Tool)を追加、5月1日より販売を開始しました。

また、本年4月、クラウドサービスの拡大を目的とした専門組織として「グループクラウドサービス部」を設置しました。

当社のビル向けクラウドサービスは、建物のオーナーからテナントまで幅広く、様々なサービスを提供してまいりました。今後はさらに、新アプリケーションの開発と体制強化によるサービス品質の向上で事業の拡大を図ります。クラウドとビルディングオートメーション (BA) システムの連携により、ビル管理者の建物・設備運転業務の自動化による労働力不足への対応、カーボンニュートルの推進、オフィス空間のウェルネス・快適性向上など様々な社会的課題の解決に貢献するサービスへと進化を続けます。

今回追加したクラウド MT は、空調の設定状況を画面一覧で確認できるビル管理者向けのアプリケーションです。ビル管理者はこのアプリケーションを活用することにより、空調のコアタイム、時間外のスケジュールがテナントの申告通りに設定されているかを簡単に確認することができ、テナントビルで重要となる課金業務をサポートします。



ビル向けクラウドサービスは、データをクラウド上に保存するため、権限のある人がアクセスして確認することができます。これまでのように建物の中央監視室の BA システムからではなく、中央監視室外からデータを確認することができ、効率的な設備管理業務を実現できるなどのメリットがご好評をいただいています。今後も事業拡大により、2030年までに100億円の売り上げを目指します。

azbil グループでは、「人を中心としたオートメーション」の理念の下、クラウドサービスを通して様々な社会的課題を解決し、人々の快適・安心の提供や、持続的な社会の発展に貢献してまいります。

*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石、高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：03-6810-1006・080-8752-2536

Press Release

アズビルと関西電力、AIを活用した設備異常検知システムの 導入・活用促進に関する業務提携に合意 － 「BiG EYES plus」を双方で販売開始 －

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博、以下、「アズビル」）と関西電力株式会社（本社：大阪市北区中之島3-6-16、代表執行役社長：森 望、以下、「関西電力」）は、AIを活用した異常予兆検知システム「BiG EYES™」を機能拡張する「BiG EYES plus™」の共同開発が完了し、火力発電所や大規模工場等への導入・活用促進に関する業務提携に合意、6月20日より販売開始することをお知らせします。

「BiG EYES plus」は、アズビルが提供するAIを活用した異常予兆検知システム「BiG EYES」の機能拡張オプションソフトウェアとして、アズビルと関西電力が共同で開発しました。火力発電所のような大規模プロセスにAIを導入する場合、一般的にその機能構築・維持管理労力と多種多様な機器の複雑な運用に対する網羅性が課題でした。「BiG EYES plus」は、関西電力が保有する火力発電の運用ノウハウと、アズビルのAI開発・運用に関するノウハウを集約して、前述のAI導入課題を解消するものです。

アズビルと関西電力はこの開発成果を基に、火力発電所や大規模工場等への「BiG EYES」および「BiG EYES plus」の導入・活用促進を進め、大規模プロセスにおける運転管理、設備管理のDXを促し、電力のさらなる安定供給と労働力人口の減少に対応した大規模プロセスの設備管理の合理化に貢献します。

azbilグループは、「人を中心としたオートメーション」のグループ理念の下、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献と持続的な成長を目指し、今後もステークホルダーとの関係を構築してまいります。

■ 関西電力株式会社における発表はこちら

URL : https://www.kepcoco.jp/corporate/pr/2023/pdf/20230619_1j.pdf

■ 商品の詳細はこちら

[オンライン異常予兆検知システム BiG EYES](#)

■会社概要

社名 : アズビル株式会社
所在地 : 東京都千代田区丸の内 2-7-3
代表者 : 取締役 代表執行役社長 山本 清博
創業 : 1906年12月1日
事業内容 : 計測・制御機器の開発・生産・販売・サービス
URL : <https://www.azbil.com/jp/>

社名 : 関西電力株式会社
所在地 : 大阪市北区中之島 3-6-16
代表者 : 取締役 代表執行役社長 森 望
創業 : 1951年5月1日
事業内容 : 電気事業、熱供給事業、電気通信事業、ガス供給事業 等
URL : <https://www.kepco.co.jp/>

■参考 :

[2021年9月15日「アズビルと関西電力におけるAIを活用し、火力発電設備を主な対象とした設備異常検知システムの共同開発について」](#)

*BiG EYES、BiG EYES plus は、アズビル株式会社の商標です。

*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先 :

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当 : 高石/高橋 メール : publicity@azbil.com
電話 : 03-6810-1006・080-8752-2536

■ その他、ご質問等のお問い合わせ先 :

アズビル株式会社 アドバンスオートメーションカンパニーSS マーケティング部コミュニケーション企画グループ
担当 : 木村 電話 : 0466-52-7040

Press Release

「令和4年度補正予算 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業」の公募に対し、アズビルをエネマネ事業者として活用するスキームが採択

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、工場の省エネルギー事業において、当社をエネルギー管理支援サービス事業者（以下、エネマネ事業者）として活用するスキームが、「令和4年度補正 予算省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業」に採択されたことをお知らせします。

■ 当社をエネマネ事業者として活用する事業

事業区分*1	事業者名	事業の名称	事業の概要
(B) オーダーメイド型事業 + (D) エネルギー需要最適化対策事業	三洋化成工業株式会社	三洋化成工業株式会社 名古屋工場 コージェネ導入事業	高効率ガスタービン CGS（コージェネレーションシステム）*2を導入し、事業場内の電力・蒸気生成プロセスを改善し、最適なエネルギー使用を実現する。また、EMS（エネルギーマネジメントシステム）*3装置を導入し、エアコンプレッサの稼働台数制御ならびにエア一減圧制御を連携させることで省エネルギー化を図る。
(B) オーダーメイド型事業 + (D) エネルギー需要最適化対策事業	不二製油株式会社	阪南事業所における CGS 更新及び EMS 導入による省エネルギー事業	高効率なコージェネレーション設備（CGS）へ更新を行い、さらに、EMS による CGS の最適制御、および非化石エネルギーの運用改善の取り組みにより、省エネルギー化を図る。

出典：一般社団法人 環境共創イニシアチブ（SII）の交付決定案件一覧（抜粋）

経済産業省が掲げる 2030 年のエネルギーミックスの達成、また 2050 年のカーボンニュートラル実現に向けて、エネルギーマネジメントは重要な事業領域であり、当社グループが実績とノウハウを持ち、成長が期待できる「環境・エネルギー事業」として注力しています。現在までも様々な省エネルギーソリューションを提供しており、エネマネ事業者として、こうした豊富な実績とノウハウにより、今後もさらなる市場拡大を目指します。

azbil グループは、「人を中心としたオートメーション」の理念の下、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を目指し、事業を通じた社会課題の解決によりさらなる成長、企業価値の向上を実現します。

- ※1 事業区分：(A) 先進事業、(B) オーダーメイド型事業、(C) 指定設備導入事業。これらの対象設備は単独申請のほか、他事業区分の設備を組み合わせる申請が可能。また、(A) (B) (C) いずれかの事業区分に、(D) エネルギー需要最適化対策事業を加えて申請することが可能（各事業区分の申請要件を満たすことが必要）
- ※2 CGS（コージェネレーションシステム）：2つのエネルギーを同時に生産し供給するしくみで、発電装置を使って電気を作り、次に、発電時に排出される熱を回収して、給湯や暖房などに利用する。
- ※3 EMS（エネルギーマネジメントシステム）：建物や工場におけるエネルギーに関するデータを一元的に管理、分析することができるシステム

*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：03-6810-1006・080-8752-2536

■ その他、ご質問等のお問い合わせ先：

アズビル株式会社 アドバンスオートメーションカンパニーSS マーケティング部

コミュニケーション企画グループ 担当：本堂 電話：0466-52-7040

Press Release

お客さまと共にアズビルの「計測と制御」を学ぶ学習サイト 「Learning Plaza」を開設

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、このたび、工場・プラント関連のお客さま向けに、学習サイト「Learning Plaza」を8月1日より開設いたしました。計測・制御機器の動作原理や特徴の学習を通じて、「工場における計測と制御」の基礎知識を習得することができます。

azbil グループは、お客さまをはじめとしたステークホルダーの皆さまと共に学び、成長することを独自のSDGs 目標*のひとつとして掲げ、取り組んでいます。本学習サイトは、その一環として、「クラウドを活用した便利な学習サイト」という価値をお客さまへお届けすることを目的に導入いたしました。製品内容のみならず、計測と制御の基礎知識から通信や防爆など様々な規格に関する知識を得ることができる学習コンテンツを取り揃えています。

【学習コンテンツ】

- **計測制御を知る**：「ゼロから学ぶ温度制御」「プロセス 4 大変数」など、フィールド機器の動作原理から自動制御を行う際の基礎知識まで幅広く学習できます。
- **製品を知る**：アズビル製品の特徴的な機能を紹介する動画が視聴できます。
- **新しい技術を知る**：アズビル製品の紹介や、開発者の想いを動画にて紹介します。
- **規格を知る**：通信や防爆に関する基礎知識を学べるコンテンツを提供します。



今後もお客さまのニーズに応えるべく、新しいコンテンツを順次公開していく予定です。

本学習サイトは会員登録すればどなたでも利用できるサイトです。アズビルの製品や技術に興味を持ってくださるお客さまへ広く学習コンテンツを提供し、計測と制御にかかわる知識を広く普及させ、生産現場の技術力向上に貢献したいと考えています。

当社は azbil グループの企業理念である「人を中心としたオートメーション」の下、お客さまとともに成長を目指してまいります。

■ 「Learning Plaza」はこちら

<https://aa-industrial.azbil.com/ja/l-p>

※ azbil グループのSDGs 目標

基本目標 I. 環境・エネルギー、II. 新オートメーション、III. サプライチェーン、社会的責任、
IV. 健幸経営・学習する企業体

基本目標の「IV. 健幸経営・学習する企業体」において、以下を掲げています。

・学習する企業体の発展・強化：

グローバルに活躍する人材の継続的育成とステークホルダーと共に学ぶ機会の拡大

*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：03-6810-1006 ・ 080-8752-2536

■ その他、ご質問等のお問い合わせ先：

アズビル株式会社 アドバンスオートメーションカンパニー営業推進本部営業基盤整備部 担当：藤元

メール：LP-info@azbil.com

Press Release

AIを応用したオンライン異常予兆検知システム BiG EYES 新たにオプションソフトウェア「自律型・品質管理 F3 モジュール」を販売開始

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、バッチプロセス向けオンライン異常予兆検知システム BiG EYES™（ビッグアイ）の新たな機能として、BiG EYES が品質管理において予兆検知した際のお客さまによる対応・処置を支援する「自律型・品質管理 F3 モジュール」を10月5日より販売開始します。

「自律型・品質管理 F3 モジュール」は、バッチプロセス向け BiG EYES R200 のオプションソフトウェアです。

製造業における高付加価値製品への移行やサービス化に伴い、品質管理の重要性はより高まっています。

今回販売する「自律型・品質管理 F3 モジュール」は、BiG EYES により検知した品質影響因子の変調をトリガーに、人へのガイダンス出力や制御システムとの連動を行うことで、迅速な対応を可能とし、品質問題の未然防止に寄与するものです。また、品質管理業務の自律化を一段進めます。

商品についてはこちらのサイトをご覧ください。

[オンライン異常予兆検知システム BiG EYES™ | 運転・監視支援アプリケーションパッケージ | アズビル株式会社 \(azbil.com\)](#)

当社は azbil グループの企業理念である「人を中心としたオートメーション」の下、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献と持続的な成長を目指し、社会課題の解決と地球環境に貢献する製品・サービスを提供してまいります。

※ BiG EYES は、アズビル株式会社の商標です。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：03-6810-1006・080-8752-2536

■ その他、ご質問等のお問い合わせ先：

アズビル株式会社 アドバンスオートメーションカンパニーSS マーケティング部

コミュニケーション企画グループ 担当：本堂 電話：0466-52-7040

Press Release

アズビルのサファイア隔膜真空計が 2023 年度グッドデザイン賞を受賞

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、当社の「サファイア隔膜真空計 形 V8C」が、2023 年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞したことをお知らせいたします。



■ サファイア隔膜真空計 形 V8C

サファイア隔膜真空計は、サファイア静電容量式圧力センサを使用した真空度を計測する機器です。半導体製造プロセスの成膜工程では、デポ*1と呼ばれる現象が発生することがあり、ゼロ点がシフトする現象により、正しい計測が難しくなる課題があります。本製品は、MEMS*2技術を用いてデポ対策を強化したセンサを搭載しており、現場の安定操業・品質管理に大きく貢献します。

半導体製造工程の成膜・エッチング装置に設置される真空計は、限られたスペースでの設置に伴い、筐体サイズの最小化を強く要求されます。また、設置方向や配線の取り回しによって、インジケータ類や設定ボタンなどの視認性や操作性、配線へのアクセス性が影響を受けている現状があります。本製品は、半導体製造装置を構成する様々な制御部品や配管設備の近傍に実装する計測器として、視覚的なばらつきを低減し、情報の可読性向上を実現しました。



サファイア隔膜真空計 形 V8C

<審査委員の評価>

「細部まで思慮の行き届いた緻密なデザインである。直線的な造形要素と整然とした排熱スリットは、測定機器に求められる精度感を高め、製品へ適度なアイデンティティを与えている。また、従来製品と比較して 40%の小型化によって、設置の自由度と環境への配慮を高めており、製品の基本性能の高さとブランドへの信頼感を外観に適切に表出したデザインである。」と評価されました。

当社は azbil グループ理念である「人を中心としたオートメーション」の下、ユーザーの使いやすさ、分かりやすさを踏まえた製品デザインを展開し、社会のニーズに応じてまいります。

*1 デポ：デポジションの略語で堆積の意味がある。半導体製造工程では薄膜を生成する成膜工程を指す。

*2 MEMS：Micro Electro Mechanical Systems の略。微小な電気要素と機械要素を一つのチップに組み込んだ、センサをはじめとする各種デバイス/システム。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石/高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：080-8752-2536・03-6810-1006

Press Release

2023年度 計測自動制御学会「技術賞」および「新製品開発賞」を受賞

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、公益社団法人 計測自動制御学会（SICE）の2023年度の学会賞として「技術賞」および「新製品開発賞」を受賞いたしましたのでお知らせします。

SICEは計測・制御・システムの分野において、研究をはじめ、関連分野、産官学との連携、情報発信の役割を担う中核的な学会です。技術賞は「新しい方式、デバイス、製品等を創案、または実施し、顕著な効果をもたらした技術的功績」に対して、新製品開発賞は「産業の分野の発展に貢献した新製品の創案」に対して贈られます。

■ 技術賞

「COAXIAL DISPLACEMENT SENSOR USING A LATERAL SHEAR INTERFEROMETER WITH A PHASE GRATING」（位相型回折格子を用いたラテラルシアリング干渉計測距技術）光を用いて非接触で計測対象物との距離を測るための新たな技術を開発しました。既存技術として、工業用途での光学的非接触距離計測法には一般的に三角測量法の原理が用いられていますが、計測対象物の凹凸形状によっては死角ができ測定不能となる領域が生じるという問題点がありました。本技術では、同軸光学系のラテラルシアリング干渉計を距離計測に応用することで、死角により測定不能領域が生じることを防止し、三角測量法の問題点を解決することができました。また、位相型回折格子を採用することでシンプルな構造とし、量産にも適した技術としています。さらに、干渉縞を解析信号で表現し、その瞬時位相を用いることで距離計測の高分解能化も実現することができました。本技術は距離計測に着目していますが、幅広い計測にも適用できる可能性を持っています。今後、ファクトリーオートメーションやプロセスオートメーションなどにおいて適用の範囲を検討し、様々な用途へ応用していく予定です。

■ 新製品開発賞

「スマートHART®モデム 形 AZ-1SHM」

プラントでは、分散制御システムの既存の4-20mAアナログ計装を利用して段階的に DX 化を進めることが可能な HART（Highway Addressable Remote Transducer）通信が、機器管理などのホストシステム・フィールド機器間の通信プロトコルとして利用されています。スマートHARTモデム 形AZ-1SHM は、ホストシステムが動作するPCと HART対応フィールド機器（HART機器）をUSBまたはBluetooth®で接続する通信インターフェースであると同時に、付属専用ソフトウェアとの組み合わせで、HART機器の導入やメンテナンス作業などのフィールドワークを効率良く実施するサービスツール機能を提供しています。また、専門知識を要する



スマート HART モデル 形 AZ-1SHM

オシロスコープやバスアナライザーなどの解析機器の代わりに、HART 通信トラブル解析のためのデータを容易に得ることを可能としました。

製品サイト

[スマートHART®モデム 形 AZ-1SHM](#)

「赤外線アレイセンサシステム」

赤外線アレイセンサシステムは、床・天井・壁の表面温度を赤外線アレイセンサで計測することで、空調対象エリアが目標の室温に到達するために必要な投入熱量を直ちに演算することができます。これにより室内の熱負荷の変化に素早く反応するフィードフォワード制御が実現でき、省エネルギーも達成できます。

また、計測した床面の温度分布から人を検知することが可能です。これによりエリアの人の在/不在による照明制御やエリアの人数に応じた外気取入れ制御などに応用することができます。

解像度、レンズ視野角、取付方法が異なる7種類のセンサを使い分けることで、オフィスから天井の高い展示会場まで様々な建物に適用することが可能です。



赤外線アレイセンサ

製品サイト

[赤外線アレイセンサシステム](#)

「バーナコントローラ 形 AUR255/455」

バーナコントローラは工業用の燃焼炉を安全に運転するための燃焼安全制御機器であり、主に燃焼制御と燃焼監視の機能を担っています。このバーナコントローラ 形 AUR255/455は、燃焼安全制御に関する機能は同じ機能を有しながらも、設計基準において機能アップをしております。バーナコントローラの設計基準は新しい国際安全規格が更新されることにより大きく変化しました。これに適合するため、形 AUR255/455の設計は、従来のアナログ回路ベースから、二重化CPUによる安全制御のソフトウェア化・デジタル化を行いました。そして、このソフトウェア化・デジタル化設計にともない、内部に、燃焼炉の予防保全に利用することを想定したバーナヘルスインデックス™ (Burner Health Index) という新しい情報処理されたバーナ健全性指標データを搭載しました。このITデータを利用することにより、燃焼炉の「見える化」が促進され、効率的な設備運用が期待できます。



バーナコントローラ 形 AUR255



バーナコントローラ 形 AUR455

製品サイト

[バーナコントローラ 形 AUR255](#)

[バーナコントローラ 形 AUR455](#)

当社はazbilグループの理念である「人を中心としたオートメーション」の下、時持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献と持続的な成長を目指し、お客さまの「安心、快適、達成感」を実現する製品や新技術の開発により社会課題解決に貢献してまいります。

※ HART®は、FieldComm Group の登録商標です。

※ Bluetooth® はBluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

※ バーナヘルスインデックスは、アズビル株式会社の商標です。

*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：080-8752-2536 ・ 03-6810-1006

Press Release

JCSS 校正事業者として、新たに認定取得および認定範囲拡大 — 高度化していくプロセスに対応した流量・流速、圧力の校正が可能に —

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 社長：山本清博）は、JCSS（Japan Calibration Service System、計量法に基づく校正事業者登録制度）の校正事業者として登録されている当社技術標準部計測標準グループが、流量・流速（微小用流量計）に加えて流量・流速（気体用流量計）についても、新たに登録・認定されたこと、また、圧力（真空計）について、その登録・認定範囲を拡大したことをお知らせいたします。

JCSS は 1993 年の改正計量法施行により、高精度の計測や品質管理の信頼性確保を目的として設立されました。独立行政法人 製品評価技術基盤機構 認定センターの審査により「品質システムの保有」「技術的能力の保有」「校正施設・機器の保有」等の要件を含む国際規格 ISO/IEC17025 に適合する事業者を JCSS 校正事業者として登録する制度です。

当社技術標準部計測標準グループは、1996 年に計測標準室を開設、2004 年には JCSS 校正事業者（登録番号 0155）として登録・認定されるなど、温度・電気・湿度・圧力をはじめとする高度な計測技術により azbil グループの「正しい計測」を支えています。

このたび、新たに MRA*1 対応にて登録・認定された範囲を含めて、以下の計測範囲が当社の登録区分となりました。これらは国内トップレベルの校正測定能力*2 となっています。

区分	計測器による計測範囲
流量・流速	気体用流量計（臨界ノズル） 0.1 L/min～200 L/min
	気体用流量計（流量計） 0.1 L/min～500 L/min
圧力	真空計 0.1 Pa～133.32 kPa

これらの認定により国際的にも通用する計測トレーサビリティの体制を構築したことで、当社が販売しているデジタルマスフローコントローラ 形 MQV・形 F4Q・形 F4H、気体用マスフローメータ 形 CMS、サファイア隔膜真空計 形 V8 などの製品の品質に、より高い信頼性を付与できるようになりました。

当社は azbil グループの理念である「人を中心としたオートメーション」の下、技術と品質の訴求に勤しみ、お客さまの価値向上に貢献する製品を提供してまいります。

■対象製品



デジタルマスフローコントローラ 形 MQV



デジタルマスフローコントローラ 形 F4Q



小型デジタルマスフローコントローラ 形 F4H



気体用マスフローメータ 形 CMS



サファイア隔膜真空計 形 V8

*1 MRA (Mutual Recognition Arrangement) : 多国間の相互承認。

*2 独立行政法人 製品評価技術基盤機構の JCSS 登録事業者の登録数値による(2023年10月17日現在)。

*掲載されている情報は、発表日現在のものです。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先 :

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当 : 高石/高橋 メール : publicity@azbil.com

電話 : 080-8752-2536 ・ 03-6810-1006

■海外情報

Press Release

アジア太平洋地域における産業デジタル化関連技術の展示会
「Industrial Transformation ASIA-PACIFIC (ITAP) 2023」へ出展
ー DX 活用のオートメーション技術によるソリューションを展示 ー

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、10月18日から20日までシンガポールで開催される、第6回 Industrial Transformation ASIA-PACIFIC (ITAP) に出展します。当社は、「持続可能な成長を支えるオートメーションの革新」をテーマとして、デジタル技術などの活用により効率化や持続可能なオペレーションを実現するプロセスオートメーション、ファクトリーオートメーションおよびビルディングオートメーションにおける数々のソリューションと製品を展示します。

ITAP は、世界最大級の産業見本市「ハノーバー・メッセ」の関連イベントであり、アジア太平洋地域で「インダストリー4.0」の推進を目的とした最大級の展示会です。今年の ITAP2023 は、製造業における最新のデジタル技術とサステナビリティをテーマに掲げ、バリューチェーン全体にわたり「インダストリー4.0」を推進する多様なリーダーとソリューションプロバイダーを深く結びつけ、持続可能な事業成長の機会を創出することを狙いとしています。



当社は、ITAP を東南アジアとインドにおける事業成長を加速するための重要な展示会の一つと位置付けており、以下の3つのテーマで最新の商品をご紹介します。

- プロセスオートメーション：プラントの安全性、安定操業、生産性向上に貢献する当社のスマート・バルブ・ポジショナや調節弁メンテナンスサポートシステムなどを活用したバルブソリューションをご紹介します。

- ファクトリーオートメーション：アズビル独自の画像鮮明化処理により、高速移動体の表面温度計測を実現し、自動検査プロセスを容易にする技術をご紹介します。
- ビルディングオートメーション：シンガポール政府機関である建築建設庁（Building and Construction Authority）が提唱するスマートファシリティマネジメントの実現を支援する当社のデジタルツインアプリケーションによるお客様の省エネルギーやサステナビリティへの貢献をご紹介します。

また、会期初日にはインダストリアル・イノベーション・ステージにおいて「生産現場におけるバルブの課題へのスマートソリューション」に関する講演を行う予定です。講演の詳細については以下「イベント」に記載のとおりです。

■ 展示会概要

展示会名	Industrial Transformation ASIA-PACIFIC (ITAP)
会期	2023年10月18日（水）～10月20日（金）
会場	Singapore EXPO
当社ブース	ホール2 & 3、ブース 2D13
事前登録	https://www.gevme.com/industrial-transformation-asia-pacific---a-hannover-messe-event-2023-61775075/?promo=REGAZBIL (Visitor での登録は無料)
アズビル企業サイト	https://itap-connected.com/meet/?co=1799d129f4e74bd88b6b (2023年10月30日まで公開)
出展内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロセスオートメーション： <ul style="list-style-type: none"> 調節弁メンテナンスサポートシステムとバルブ解析診断サービス 調節弁の管理とオンライン診断によりメンテナンス作業の効率を向上 ■ ファクトリーオートメーション： <ul style="list-style-type: none"> 赤外線サーモグラフィシステム 2次元表面温度測定による検査の自動化に貢献 ■ ビルディングオートメーション： <ul style="list-style-type: none"> 統合型ビルディングマネジメントシステム（IBMS） 建物の運用分析による高度な最適化により、持続可能なビルディングマネジメントを促進する適応型デジタルプラットフォーム エアサイド・デジタルツイン 現場の空調機の運用を AI によりシミュレーション分析することで、建物の効率的な運用をサポート
イベント	講演：生産現場におけるバルブの課題へのスマートソリューション 2023年10月18日（水）14:40-15:00（シンガポール時間） Singapore EXPO、ホール3、Industrial Innovation Stage

当社は、azbil グループの理念である「人を中心としたオートメーション」の下、持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献ができる技術とサービスをお客さまに提供してまいります。

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：080-8752-2536 ・ 03-6810-1006

Press Release

タイ アテネホテルの ESCO サービスを開始 — アズビルタイランドと芙蓉総合リースタイランドの協業 —

アズビル株式会社
芙蓉総合リース株式会社

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内 2-7-3 取締役 代表執行役社長：山本清博、以下、「アズビル」）の現地法人であるアズビルタイランド株式会社（本社：バンコク 社長：河村隆明、以下、「アズビルタイランド」）と、芙蓉総合リース株式会社（本社：千代田区麴町 5-1-1 代表取締役社長：織田寛明、以下、「芙蓉リース」）の海外グループ会社である Fuyo General Lease (Thailand) Co., Ltd.（本社：バンコク、取締役 CEO：小林教男、以下、「芙蓉リースタイランド」）は、タイを代表する総合不動産会社であり、タイの大手財閥 TCC グループの一員であるアセット・ワールド・コーポレーション(AWC)の所有するホテル、ラグジュアリーコレクションホテル バンコク (The Athenee Hotel, a Luxury Collection Hotel, Bangkok 以下、「アテネホテル」) の ESCO 事業*1 を開始したことをお知らせします。

本事業は、アズビルタイランドと芙蓉リースタイランドが協業し、シェアード・セイビングス契約*1 として実施した、初の取組みになります。

アテネホテルは、タイバンコク中心部に位置するマリオットグループが運営する五つ星ホテルで、ワライ・アロンコン王女が所有していたカンダヴァス宮殿跡地に建てられたタイ王室との深いつながりを持つホテルです。アテネホテルは、イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム (Event Sustainability Management System : ESMS) の国際標準規格である ISO20121*2 認証を取得したホテルとしても知られています。

本事業において、アズビルタイランドは、BEMS*3 の導入による空調・換気等の設備機器の運転管理の改善や効率化、各種省エネルギー制御の導入などを実施しています。芙蓉リースタイランドは、BEMS 設備の所有・管理を実施しています。本事業により、アテネホテルの総エネルギー消費量（電気代）の約 8%、空調設備のエネルギー消費量の約 12% を削減し、CO2 排出量削減に寄与します。

2022 年 1 月に契約締結・着工、同年 10 月 1 日より 4 年間の省エネルギー保証サービスを開始しました。このプロジェクトは、AWC のサステナビリティ戦略の下、建物内のエネルギー消費量について最大限の削減効果を創出することを目的としています。現在は、順調な工事進捗管理や、サービス開始後の省エネフォロー体制について TCC グループより高い評価をいただいています。

今後、アズビルタイランドと芙蓉リースタイランドはTCCグループがタイ国内に所有する複数のホテルにおいてもESCO事業の推進をサポートしてまいります。

azbilグループは、「人を中心としたオートメーション」のグループ理念の下、ESCO事業を通して持続可能な社会へ「直列」に繋がる貢献を実践してまいります。

芙蓉リースグループは、2022年度からスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとしての持続的な成長を目指してまいります。

■会社概要

社名 : アズビル株式会社
所在地 : 東京都千代田区丸の内 2-7-3
代表者 : 取締役 代表執行役社長 山本 清博
創業 : 1906年12月1日
事業内容 : 計測・制御機器の開発・生産・販売・サービス
URL : <https://www.azbil.com/jp/>

社名 : 芙蓉総合リース株式会社
所在地 : 東京都千代田区麹町 5-1-1
代表者 : 代表取締役社長 織田 寛明
設立 : 1969年5月1日
事業内容 : 法人向けリース・ファイナンスサービスおよび各種ソリューションの提供
URL : <https://www.fgl.co.jp/>

- *1 ESCO事業：Energy Service Company 事業。工場やビルの省エネルギーに関する包括的なサービスの提供を通じて、そこで得られる効果をサービス提供者が保証する事業。資金を顧客が負担し、ESCO事業者が省エネ保証を行う「ギャランティード・セイビングス契約」と、ESCO事業者が資金提供を行い、顧客は省エネ効果を含めたサービス料を支払う「シェアード・セイビングス契約」という2つの契約形態がある。
- *2 ISO20121: イベント運営における環境影響の管理に加えて、その経済的、社会的影響についても管理することで、イベントの持続可能性（サステナビリティ）をサポートするためのマネジメントシステムの国際標準規格
- *3 BEMS: Building Energy Management System。室内環境とエネルギー性能の最適化を図るためのビル管理システム



ホテル名称：アテネホテル

所在地：61 Wireless Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok, Thailand

URL：<https://www.marriott.com/en-us/hotels/bkkla-the-athenee-hotel-a-luxury-collection-hotel-bangkok/overview/>

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 コミュニケーション部広報グループ 担当：高石／高橋 メール：publicity@azbil.com
電話：03-6810-1006・080-8752-2536

芙蓉総合リース株式会社 コーポレートコミュニケーション室 担当：山崎・渡邊
電話 03-5275-8891

■ESG・外部評価情報

Press Release

トルコ・シリア地震に対する支援について

2023年2月にトルコ・シリア国境付近を中心に発生した大地震では数万人の方々が犠牲となり、なおも多くの住民が家を失うなど困難な状況におかれています。お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

アズビル株式会社（本社：千代田区丸の内2-7-3 社長：山本清博）は、このような甚大な被害を受けた被災地支援と復興に役立てていただくため、azbilグループを代表して、日本赤十字社の「2023年トルコ・シリア地震救援金」へ300万円を寄付することを決定しました。

なお、アズビルが2016年に設立した一般財団法人アズビル山武財団※からも被災地の子どもたちに対する支援のために、UNICEF（国連児童基金）の「トルコ・シリア地震緊急募金」に対して100万円の寄付を実施いたします。

azbilグループは、これからも持続可能な社会の実現を目指し、グローバルな社会的課題の解決に積極的に取り組んでまいります。この度被災されました方々に、改めてお見舞いを申し上げますとともに、被災された地域の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

※ アズビル山武財団については、下記のサイトをご覧ください。

[アズビル山武財団](#)

■ 報道関係者からのお問い合わせ先：

アズビル株式会社 広報グループ 担当：安富／高橋 メール：publicity@azbil.com

電話：080-4112-4782 ・ 03-6810-1006